

「RiceCam S」 使用マニュアル

1 はじめに

「RiceCam S」は、スマートフォンのカメラ機能で取得した画像から、「京の輝き」(基肥一発体系)の田植え55～60後頃の幼穂形成期の生育量と、生育量に応じた穂肥施用量を診断するアプリケーションです。

<本アプリの使用に係る注意事項>

- 本アプリは、京都府内で栽培している「京の輝き」(基肥一発体系)を対象とし、生産者の肥培管理や技術指導者による栽培技術指導等の参考とすることを目的とする。
- 本アプリの使用料は無償。ただし、端末等に係る通信費等は利用者の負担とする。
- 利用者は本アプリの目的外使用や改造、第三者への提供等を行ってはならない。
- 本アプリの取り扱いの結果生じるいかなる事象に関しても、利用者は京都府農林水産技術センターに一切の損害賠償を請求しない。

2 「RiceCam S」 の使用方法

(1) 診断時期

田植え 55～60 日後（幼穂形成期）

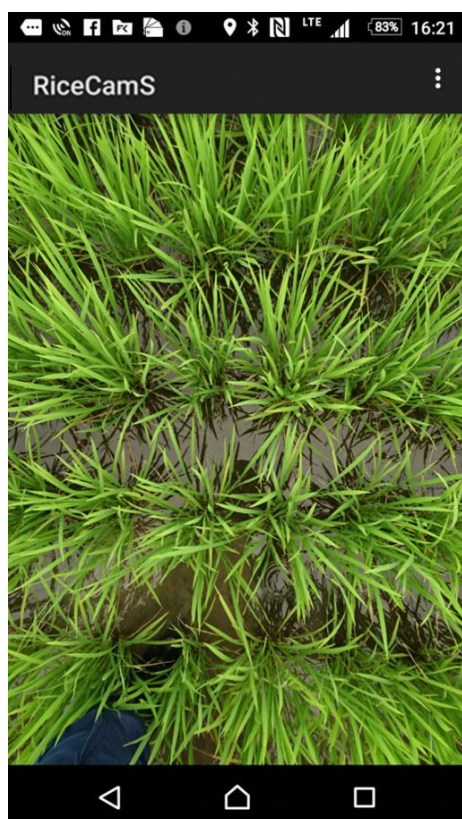
(2) 診断方法

①アプリの起動

<カメラや位置情報について>

- 使用許可を求められたら、許可を選択
- 使用許可は設定画面で変更可能
- 使用できないと本アプリは動作不可

<Android>

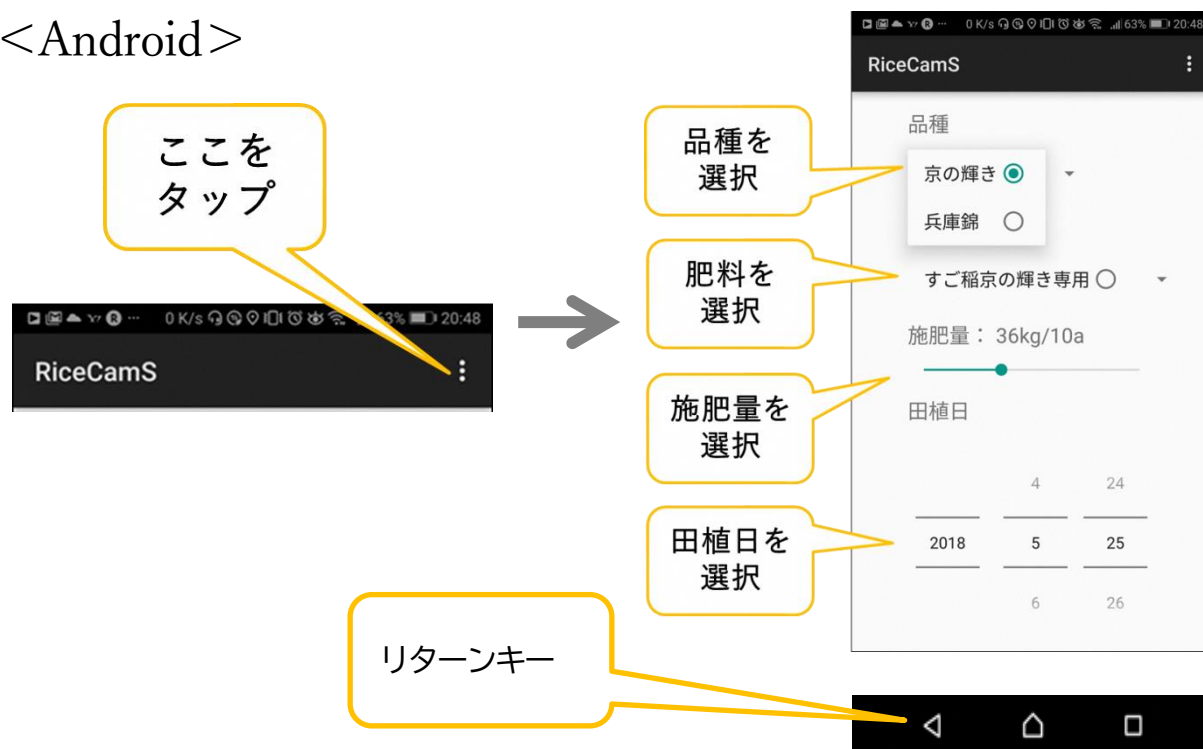


<iOS>

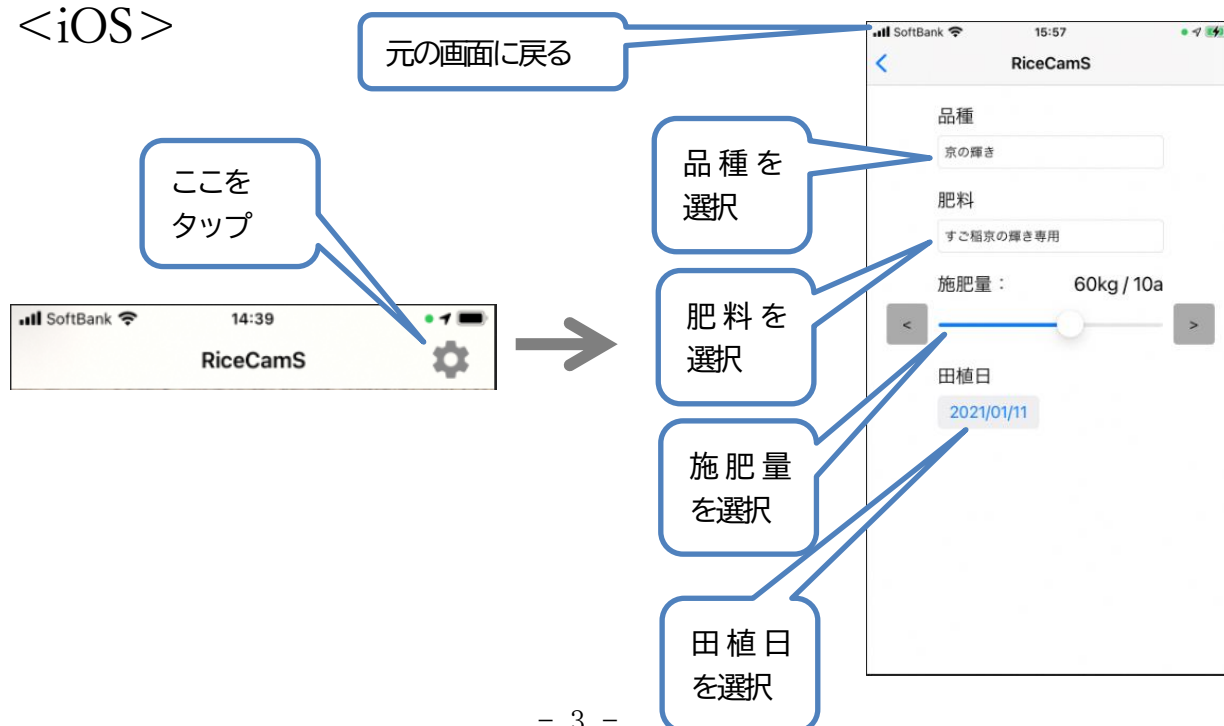


②設定画面から品種、肥料、施肥量、田植日を設定し
リターンキーで撮影画面に戻る

<Android>



<iOS>



③稲株の葉先から 70cm の位置で撮影

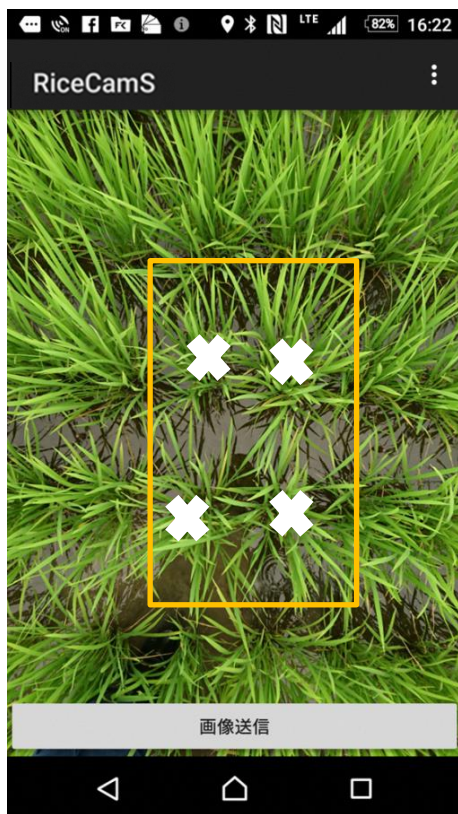
4 株の中心が、撮影画面中央になるように撮影



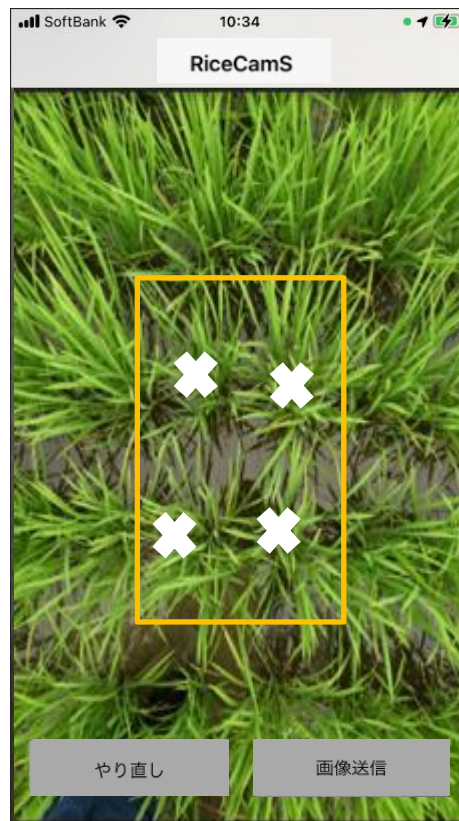
- 生育が中庸な場所を選定し、1 ほ場内で数カ所診断。
- 1 ヶ所につき 3 回程度診断を行い、生育量の数値に大きな差（20 ポイント以上）が見られなければ診断値とする。
数値が安定しなければ再度診断。
- 天候に関わらず診断は可能だが、撮影時間は、稲株の陰がなるべくできない時間帯（11 時～14 時ぐらい）が適する。
- 直射日光が稲体や田面水に当たると逆光となり、画像が白化し、診断値が安定しないことがあるので、その場合は傘などで日陰を作り、診断を行う。
- うまく撮影できない場合、リターンキーで戻り、再度撮影。

④中央4株をタップした後、画像送信ボタンをタップ

<Android>

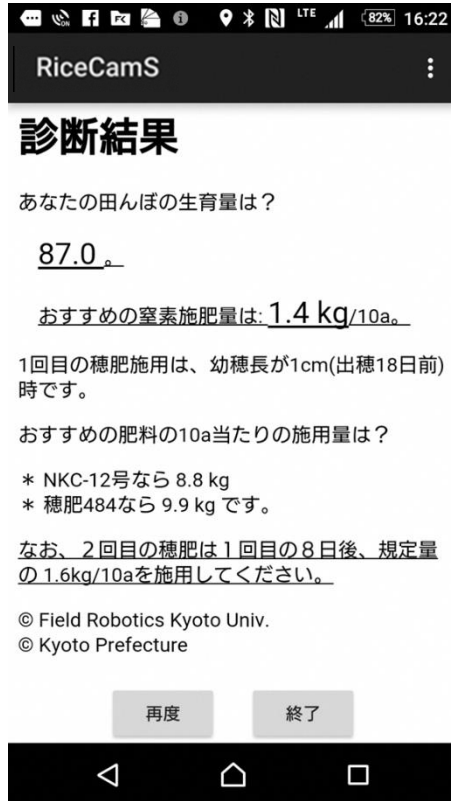


<iOS>

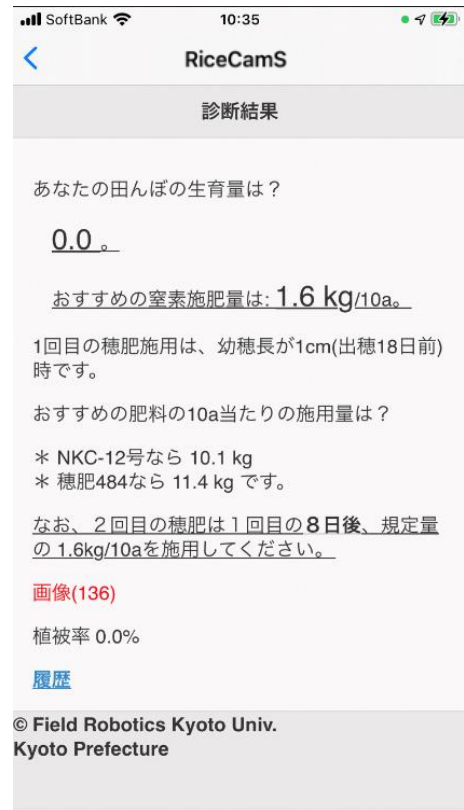


⑤診断結果が送信される

<Android>



<iOS>



令和4年3月作成

<Android版> 京都府農林水産技術センター

<iOS版> 株式会社スリーエース 開発部